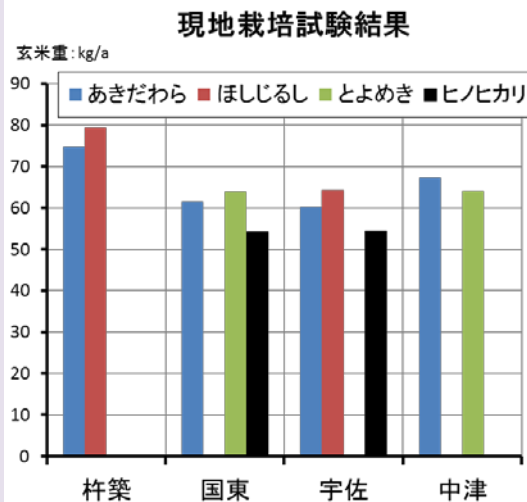


【全体概要】

本県低標高地域は「ヒノヒカリ」一極集中状態であり、作業の集中による収量・品質低下や気象災害リスクにさらされている。そこで、「ヒノヒカリ」と作期の異なる多収性品種の特性把握を行い、業務用需要に対してのロット面や価格面において安定的な取引の体制確立を図る。

新品種・新技術等の概要

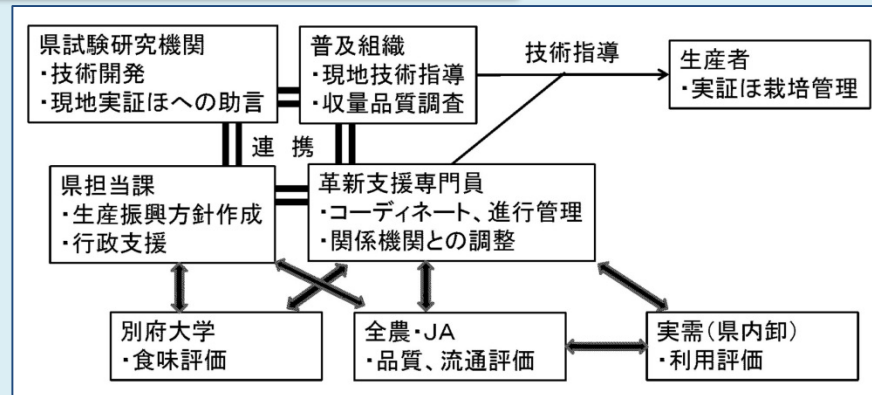
多収性早生品種：「あきだわら」「ほしじるし」「とよめき」
(いずれもヒノヒカリより1～2週間程度早生)



主な取組内容

- ① 現地実証ほにおける品種比較
 - ・県内4か所に現地実証ほ、および県農試において4品種の比較検討を行った。
- ② 生産物の品質・食味評価
 - ・大学及び専門機関に委託し、食味官能評価を実施した。
- ③ 実需・流通事業者を交えた検討会の開催
 - ・現地実証ほでの中間検討会、および成績検討による関係機関の意識統一を行った。
 - ・関係者で先進地調査を行い、優良地域の情報収集を行った。

コンソーシアム候補の体制図



課題と今後の対応

【実証結果】

- ・各品種とも収量面では「ヒノヒカリ」を上回り、かつ品質・食味は業務用需要に応じられるものであった。
- ・各品種の収量性の優劣は、各地域で異なり判然としなかった。

【課題】

- ・目標収量と設定した600kg/10a以上の安定確保。
- ・最適な栽培方法の確立。

【今後の対応】

- ・品種比較試験を県農試中心に実施し、適品種選定を行う。
- ・収量性向上を目的に、試作一発肥料を主体とした試験を現地実証ほで実施。
- ・関係機関と連携し、業務用途向け専用品種による栽培・流通・販売の仕組み作りを確立する。